

(3) 英語の力の面でのつながり

中学校英語科の評価の観点は「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「理解の能力」、「表現の能力」、「言語や文化についての知識・理解」の4観点である。

市が示す小学校英語科は「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「表現の能力」、「文化理解」の3観点であるが、表現するためには表現しようとするものを探していいることが前提であると捉えることができるので、「表現の能力」に「理解の能力」を包含して考えることができる。つまり、小学校と中学校の評価の観点は共通しており、小学校英語と中学校英語は力の面でもつながりがあるといえる。

| | <小学校英語> | <中学校英語> |
|-------|---|-----------------------|
| 評価の観点 | ○歌、ゲームなどを通じてコミュニケーションを楽しんでいる。 | ➡ コミュニケーションへの関心・意欲・態度 |
| | ○挨拶したり相手の話す英語を分かろうとして聞くなど。 | ➡ ② 理解の能力 → 聞く、読む |
| | ○相手の英語表現をまねたり、簡単な英語で話そうとするなど。 | ➡ ③ 表現の能力 → 話す、書く |
| | ○英語の音声、リズム、イントネーションに慣れる、交流体験をする。 外国人教師とのふれあい | ➡ ④ 言語や文化についての知識・理解 |

図 10 英語の力の面でのつながり

② 文字指導について

小学校英語における文字指導については様々な見解があるが、本市においては「児童の英語学習の意欲につながるのであるなら、高学年で導入してもよい。音声指導を中心としながら、児童の実態をよく見極めて指導してほしい。」という方針が平成17年度に示されている。

仲西中学校の一年生を対象に実施したアンケートによると、「小学校でもっと学習したかった内容」として5割近くの生徒が「英語を書くこと」と「英語を読むこと」を選択しており、子ども達

の文字学習に対する感心の高さが表れている。

小学校英語における文字指導は、体験を通して英語に触れ慣れ親しむという小学校英語の特性から考えると、ゲーム的な活動の中で楽しみながら文字に触れる活動が望ましいと考える。

本カリキュラム作成に当たっては、文字指導が「児童の学習意欲につながるのであるなら」という市の方針と英語経験年数が学校間で異なることを考慮し、各校が実態に応じて実施する際の資料となるよう活動例を紹介するに止める。

◇ I like ~ / I don't like ~ / Do you ~ ? の展開例

教材 : New Horizon English Course 1 (Unit 3)

Total English 1 (Lesson 1)

<目標>・自分の関心のある物が紹介できる

・相手に簡単なインタビューができる。(簡単な質疑応答ができる)

| | 学習活動 | 小学校活動 (中学校活動) | 指導上の留意点 | |
|----|---|--|--|---------------------------------|
| | | | 教師の動き(働きかけ) | 評価の観点 |
| 導入 | Greeting 大きな声で挨拶 | Eye contact / Clear voice | ・挨拶で雰囲気つくりをする、 | |
| 5 | <Warm-up>---教室の物で英会話 ・教室にある物を指さし「Repeat after me. ~」 いくつか発音した後「What's this ?」などと尋ねる、 | 身の回りの物 (全学年) | ・挨拶が終わったらすぐ活動に入る。 ・小学校で学習した言語事項などでテンポよく進める | ・声を出して真似ている ・質問を理解している |
| 5 | 給食メニューに手をのばし「I'm hungry.」 と言い、メニューを英語で紹介、そして「I like ~」と好きな食べ物を言う、生徒にジェスチャーを交えながら「What food do you like ?」の質問をする、 | I like ~ What ~ do you like ~? ③④⑤⑥ | 小学校で学習したことを見実践させる場面なので、生徒に英語を使わせるチャンスを多く与える、 | ・質問に(何とか)答えようとしている |
| 5 | I don't like ~ / Do you like ~? へ発展させる ↓(活動後) | I don't like ~ ③④ | | |
| 5 | Let's play the game !---ホットポテトゲーム I like ~ / I don't like ~ ・I like ~ / I don't like ~ / Do you like ~? Yes, I do. No, I don't を文字で確認、 ↓ (フラッシュカードは 次の活動につなげる) | ホットポテト ゲーム (中学) 知識面の学習 (ちょっとぶれる) | ・ゲームに参加している ・フラッシュカードを用いて熟読させる、(いろんなバリエーションで) ・フラッシュカードは黒板に掲げる | ・ゲームに参加している ・真似ながら正確な発音をしている |
| 5 | ・インタビュー活動 できるだけ多くの友だちにインタビューする。(つなぎ言葉を用いながら自然な対話ができるようにする) | (中学) 小学校活動 ↓発展 自然な対話 | ・Do you like ~? の文を機械的に使ってインタビューさせるのではなく、つなぎ言葉等も用いさせ自然な対話を仕組む、 | ・積極的にコミュニケーションを取っている |
| 10 | ・I like ~ / I don't like ~. Do you like ~? Yes, I do. No, I don't の意味、用法を理解する。(否定文、疑問文、考え方) ↓ ・ノートに整理する、 | (中学) 知識面の学習 (文法的説明) | ・否定文、疑問文、考え方の確認・説明をし、ノートにまとめさせる。 ・机間巡視し、支援・援助を行う、 | ・疑問文、否定文を理解している |
| | ・新出単語の読み・意味 単語を正確に発音する。 ・本文の読みの練習 文を正確に読む、 | | ・フラッシュカードを使う (ワンパターの活動にならないよう工夫する) ・単語や文を正確に発音しているかチェックし、支援・援助する | ・正確に発音している ・正しい本読みをしている |

◇ I am ~ / You are ~ / Are you ~? の展開例

教 材 : Total English 1 (Lesson 4)

| 学習活動 (生徒の活動) | | 小学校活動 (中学校活動) | 指導上の留意点 | |
|-----------------|---|--------------------------------|---|---|
| | | | 教師の動き(働きかけ) | 評価の観点 |
| 導入 | Greeting 大きな声であいさつする, (一通りのあいさつを済ませる) | Eye contact / Clear voice | ・あいさつで雰囲気つくりをする, | Eye contact Clear voice |
| 5 | T : Hi, I'm ~. And you? と SI に声をかける。 SI : I'm ~. と答えたら, OK, good. と誉める。 答えに戸惑っていたら, T が一人二役をし, ヒントを与える。 ↓ 何人かデモンストレーション列でリレー紹介する。 ↓ (次の活動へ) | I'm / You are の表現は全学年で活用 | ・あいさつが済んだら, すぐ次の活動へ進める。(説明なし) | ・聞く態度 |
| 5 | <デモンストレーション> (4人グループ) — それぞれ名前を考える T : Hi, I'm ~. And you? SI : I'm ~. You are ~. で名前を確認 グループでリレー紹介をする ↓ (終了したら) 名前あてをする T : Are you ~? SI : Yes, I am. / No, I am not. (I'm not) 隣へリレー問答をする <デモンストレーション終了> ↓ (グループ活動に移る前) ↓ 表現の仕方を確認させる) | (中学) 文字と音の確認 疑問文・応答文の作り方 | ・フラッシュカードで提示し, 発音を全体で確認。 (黒板に掲示) ・活動から活動への流れは生徒が自動的に動けるよう説明する。 | ・声を出してリピートしている ・聞く態度 |
| 5 | グループ活動 ↓ (活動後) | | ・フラッシュカードで提示し, 発音を全体で確認。 (黒板に掲示) | ・聞く態度 |
| 5 | 隣のグループと合体し人数を多くする | | ・楽しく活動する工夫する, (ゲームを仕組む) | ・活動に参加している |
| 10 | ・ I am ~. / You are ~. ・ Are you ~? Yes, I am. / No, I'm not の意味、用法を理解する。 ↓ ・ ノートに整理する。 | (中学) 裏面の学習 (文法的説明) | ・ am / are の用法, 疑問文, 応答文の確認, 説明をし, ノートのまとめさせる, ・ 机間巡回し, 支援・援助する, ・ ワークシートでドリル学習 | ・ am / are の使い分けができる ・ 疑問文, 応答文を理解している |
| | ・ 新出単語の読み・意味 単語を正確に発音する ・ 本文の読みの練習 本文を正確に読む | | ・ 単語や文を正確に発音しているかチェックし, 支援・援助する, ・ 内容の問答を行う。 | ・ 正確に発音している。 ・ 正しい本読みをしている。 ・ 質問の内容を理解している。 |

◇ How many ~?(数の言い方) の展開例

教 材 : Total English 1 (Action : いくつある? P48)

<目標> ・100までの数が言える。

・「いくつあるか」尋ねたり応答ができる。

| | 学習活動 (生徒の活動) | 小学校活動 (中学校活動) | 指導上の留意点 | |
|------|---|------------------------------|---|--|
| | | | 教師の動き(働きかけ) | 評価の観点 |
| 導入 5 | Greeting 大きな声でいきつする, | Eye contact / Clear voice | ・あいさつで雰囲気つくりをする, ・1 ~ 100まで既習 | Eye contact Clear voice |
| 5 | <Warm-up> ・数字bingo ・暗号解読ゲーム(1 ~ 80まで使用) ※(「英語遊びおもしろゲーム50選」より) | | ・小学校によって異なるので既習 数字を確認する, ・数字の言い方を全員で確認して からスタートする, | ・1 ~ 100まで言える |
| 展開 5 | <生徒の持ち物を利用して数を尋ねる> How many ---do you have? I have (数)... / I have no ... <デモンストレーション> T : Do you have any ~? S1 : Yes, I do. T : How many ~ do you have? S1 : I have (数)~. 又は T : Do you have any ~? S1 : No, I don't. I have no ~. ↓活動 教科書P49の活動を発展 カバンの数を増やしインタビュー活動を する。(カバンの持ち主をはやく見つける) | How many ~? ④⑤⑥ | ・「How many ~?」の表現は小学校で経 験済みだが、複数形も伴うので、発表の際 にはチェックする。支援・援助する。 (中学) 1.2の複数形 の再確認 | ・聞く態度 ・声を出してリ ピートしている How many ~ do you have? Yes, I do. / No, I don't I have (数)~, / I have no ~ |
| 7 | | (中学) 自然な対話 を仕組む | ・ワークシートを準備する | ・活動に参加し ている ・質疑応答がで きている |
| 10 | ・ How many ---do you have? I have (数)... / I have no ... の意味、用法を理解する。 ↓ ・ノートに整理する, ・新出単語の読み・意味 単語を正確に発音する | (中学) 黙面の学習 (文法的説明) | ・How many ~?を使った質疑応答、 数の言い方のポイントを確認 させる, ・ノートにまとめさせる。 机間巡視し、支援・援助する ・単語や文を正確に発音している かチェックし、支援・援助する, | ・複数形を理解 している ・How many の 用法を理解して いる ・正確に発音し ている。 |

◇ What time is it? / What time do you ~? の展開例

教 材 : Total English 1 (Action p66)

<目標> ・時刻や天候についての表現ができる。

・1日の生活パターンについて話したり、尋ねたりすることができる。

| 導入 | 学習活動 | 小学校活動 (中学校活動) | 指導上の留意点 | |
|----|--|---|---|--|
| | | | 教師の動き(働きかけ) | 評価の観点 |
| | Greeting 大きな声で挨拶 <Warm-up> ・単語bingoゲーム(前時学習した単語) それぞれ BINGO の列の単語を追読み 列から5つ選び枠に記入 教師がそれぞれの列の単語を1つ読み上げる (例: read, アール, イー, エイ, ディー, read) | Eye contact / Clear voice <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">(中学) 単語を 読む . 書く</div> | <ul style="list-style-type: none"> 一通りの挨拶をテンポよくすませる。(全体一個: チャンスを多く) 英語の学力に関係なく誰もが楽しめる、単語の復習・定着を図れるようする。 | Eye contact Clear voice |
| | ・数字になれる 1~100まで全員で合唱 (順番よく→アトランダム) ↓ (フラッシュカードは 次の活動につなげる) (一連の活動として次へ流れる) | 数字(1~100) (全学年) | <ul style="list-style-type: none"> リズムにのせテンポよく フラッシュカードで数字を提示(工夫する) | ・数字が言える |
| | ・What time is it now? --- It's ~. 尋ね方・応答の形を確認後ペア活動 (ワークシートを完成させる) ↓(表現を発展させる) ・What time is it in 地名? It's ~ in the (morning / afternoon / evening /) on 曜日。 尋ね方・応答の形を確認後ペア活動 (ワークシートを完成させる) | What time is it? ⑤⑥ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">(中学) 各国の時 午前/午後 曜日を加 えた表現へ</div> | <ul style="list-style-type: none"> What time ~?の文と応答の形を確認させる。(フラッシュカード) ワークシートを準備する in the morning afternoon / evening on 曜日 の表現を紹介する 全体で発音させる。 | ・時刻の表現ができる ・コミュニケーションを取っている (活動への参加) ・スムーズに対話している |
| | ・What time do you ~? / I ~ at ---. 尋ね方・応答の形を確認後インタビュー活動する。(教科書 P66 の活動を展開) | What time do you ~? ⑤⑥ | <ul style="list-style-type: none"> What time do you ~? I ~ at ---.を確認させる、(フラッシュカードを使用し、黒板に掲示) | ・多くの友だちと対話している ・内容を理解している |
| | ① What time is it? It's ~. ② What time is it in 地名 ? It's ~ in the (morning / afternoon / evening /) on 曜日. ③ What time do you ~? I ~ at ---. の意味、用法を理解する。 ↓ ・ノートにまとめる | (中学) 小学校の活動 ↓発展 中学校の活動 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">知識面の学 (文法的説明)</div> | <ul style="list-style-type: none"> 時刻の尋ね方・応答の仕方の用法のパターンを3つ説明、確認させる。 ノートにまとめさせる。 机間巡視し、支援・援助を行う。 | ・What time の用法を理解している |
| | ・新出単語の読み・意味 単語を正確に発音する | | <ul style="list-style-type: none"> 単語や文を正確に発音しているかチェックし、支援・援助する。 | ・正確に発音している。 |

VII 研究の成果と課題

1 成 果

- ・「教科目標」、「英語の力の面」、「指導内容」における小学校から中学校へのつながりを明確化することにより、小学校英語と中学校英語の目指す先は共通していることを確認できた。
- ・小学校・中学校各学年の指導計画一覧表の作成、関連事項の位置づけをすることにより、小・中英語学習の系統性・発展性を意識することができた。

2 課 題

- ・小中関連する単位時間ごとのモデル指導案の作成(コミュニケーション活動面(場面設定)、言語事項面、題材面等)
- ・市内小学校の英語学習内容の統一

〔終わりに〕

本研究は「小学校英語」と「中学校英語」がうまく結びつけられることを目指し、「小中連携」を通してカリキュラムの作成や指導方法の工夫改善の手立てを探ったものである。

最初は小中の英語教育の共通点を明確化することから始めた。次に小学校においては発達段階に応じた内容を考慮し、中学校においては小学校英語活動を位置づけゼロからのスタートにならないよう考慮した指導計画を作成した、しかしそれは詳細なものでなく、ガイドライン的なものである。課題が多く、毎回押し寄せてくる大きな不安との戦いであった。

小中英語教育の連携の必要性はよく言われるが、他教科のように学習指導要領に基づいて目標や学習内容の一貫性を示すものではなく、簡単にいかないことが多い。各小学校においては独自のカリキュラムを作成し、英語活動を行っている状況である。それ故、まずすべきことは小中の指導者がそれぞれの学習形態を知り、理解することであろう。

この半年の研究期間中、いろいろと支援してくださった浦添市教育委員会の上原周子指導主事、宮城妙子英語教育コーディネーター、教育研究所の比嘉信勝所長、当間正和係長、石川博基指導主事、所員、IT指導員の方々、校長先生はじめ仲間の皆様、そして共に語り合った33期研究員仲間に心から感謝申し上げます。

〔参考文献及び資料〕

- ・小学校英語活動情報 WEB
- ・『小学校に英語がやってきた!』 松川禮子 アプリコット 1997年
- ・京都市教育委員会京都市立永松記念教育センター
『研究紀要(平成11年度)～小・中学校における「総合的な学習」の展開に向けて～』
『研究紀要(平成13年度)～中学校における「生きる力」の育成をめざして～』
- ・大垣市教育委員会 大垣市教育研究所
『研究員の研究集録(平成15年度)』 『研究員の研究集録(平成16年度)』
- ・『中学校指導要領』 文部科学省
- ・『NEW HORIZON』 指導書 東京書籍
- ・『研究開発実施報告書』 第一年次・第二年次 那覇市教育委員会
- ・『中学校の授業開き』 田上善浩 編著 明治図書 2003年
- ・『小・中学校の英語遊び2』『小・中学校の英語遊び4』 明治図書
- ・『中学校英語教科の達成度評価』 荒木秀二編 明治図書 2002年
- ・『歌って遊ぼう小学生の英語の歌』 八田久弥 小学館 2000年
- ・『英語の歌と活動アイディア 50ENGLISH SONGS』 水谷晃三 文溪堂 2001年

- ・『歌でおぼえる英会話』 酒井義夫 いづみ書房 2001 年
- ・『小学生は英語が大好き』 松香洋子 松香フォニックス研究所 1999 年
- ・『英語の歌とゲーム・活動アイディア集』 宮木立雄 小学館 2000 年
- ・『英語科で「コミュニケーション能力が育つ!』 福岡県小郡市立東野小学校 明治図書 2003 年
- ・『「英語活動」のカリキュラム・プランニング』 小学校英語「東書プラン」作成委員会 東京書籍 2001 年
- ・『Song and Chants』 松香洋子 松香フォニックス研究所